



関西学院大学リポジトリ

Kwansai Gakuin University Repository

『エンゲル係数の動き』

著者	古澄 英男
雑誌名	エコノフォーラム21 : 学生と教職員のインターコミュニケーション誌
号	25
ページ	39-39
発行年	2019-03-14
URL	http://hdl.handle.net/10236/00027839

2018年
6月11日
月曜日古澄 英男 教授（計量経済学）
『エンゲル係数の動き』

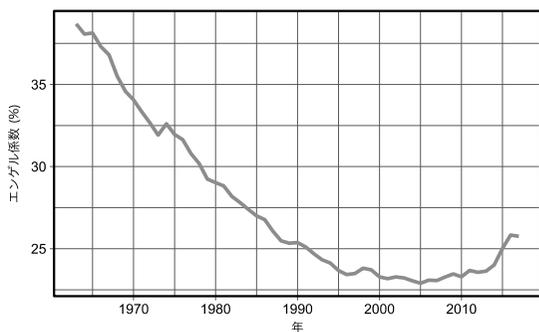
経済学部の学生であれば、「エンゲル係数」という言葉を聞いたことがあるであろう。念のために説明しておく、エンゲル係数とは家計の消費支出に占める飲食費の割合のことであり、エンゲル係数＝100×飲食費／消費支出と定義される。

日常生活をする上で食料や水は必要不可欠であるため、所得水準が低くても食品に対しては一定水準以上の支出をしなければならない。そのため、所得が低い家計では食費が生活費において大きな割合を占めることになり、エンゲル係数が高くなってしまう。一方、所得水準が高い場合には、食費も増加するが、生活にゆとりが出てくるので、嗜好品、耐久消費財、教養・娯楽などへの支出も増え、結果として飲食費の割合が相対的に減少しエンゲル係数は低くなる。以上のことから、エンゲル係

数が高い家計ほど生活が苦しく、逆にエンゲル係数が低い家計ほど生活にゆとりがあると考えられ、エンゲル係数は経済的豊かさや生活水準を表す指標として利用されることがある。

では、日本のエンゲル係数の水準はどれくらいであろうか。エンゲル係数の意味を知っていても、実際の値を知っている人は少ないのではないだろうか。図には、1963年から2017年までの我が国におけるエンゲル係数の推移が示されている（ここでは「家計調査」（総務省統計局）のデータを使って、農林漁家世帯を除く二人以上の世帯のエンゲル係数を計算した）。

図を見ると、1963年にはエンゲル係数は38.7%であったが、年々減少し1979年には30%を下回るまで低下していることがわかる。



図：二人以上の世帯のエンゲル係数の推移（1963年～2017年）

1980年代も引き続きエンゲル係数は減少し、1992年に25%を切り、2005年には22.9%まで低下している。先に説明したように、エンゲル係数は経済的豊かさや生活水準を表しているの、2005年

まで日本は経済的に豊かになってきたと考えることができる。おそらくこの点については、実感と一致していると感じる人は多いであろう。

しかし、2005年を過ぎるとエンゲル係数が上昇傾向に転じており、2015年は25.0%、2016年は25.8%、2017年は25.8%となっている。直近の25.8%というエンゲル係数の水準は、1987年の26.1%とほぼ同じであり、現在の日本の生活水準は30年前に戻ってしまったことになる。一体なぜエンゲル係数は最近になって上昇したのであるか。このエンゲル係数の上昇については様々な要因が考えられる。機会があれば、講義のときにでもエンゲル係数が上昇した理由を紹介できたらと考えている。